アマチュアオーケストラ

新交響楽団第265回演奏会

The New Symphony Orchestra－265th Concert

指揮 矢崎 彦太郎

YAZAKI Hikotaro, conductor

デュカス

交響曲 ハ長調

Paul DUKAS (1865-1935): Symphony in C major, 1896

ラヴェル

高雅で感傷的なワルツ

Maurice RAVEL (1875-1937): Valses nobles et sentimentales, orchestral version, M. 61b, 1912

レスピーギ

交響詩「ローマの松」

Ottorino RESPIGHI (1879-1936): Pini di Roma (Pines of Rome), tone poem for orchestra, P. 141, 1924

Design: IMAO Keisuke

2024年4月21日（日）

池袋駅西口 Ikebukuro Station, West Exit　　13:00 開場

東京芸術劇場コンサートホール 14:00 開演

Sunday, April 21, 2024, 2:00pm (doors open at 1:00pm)
at Tokyo Metropolitan Theatre, Concert Hall

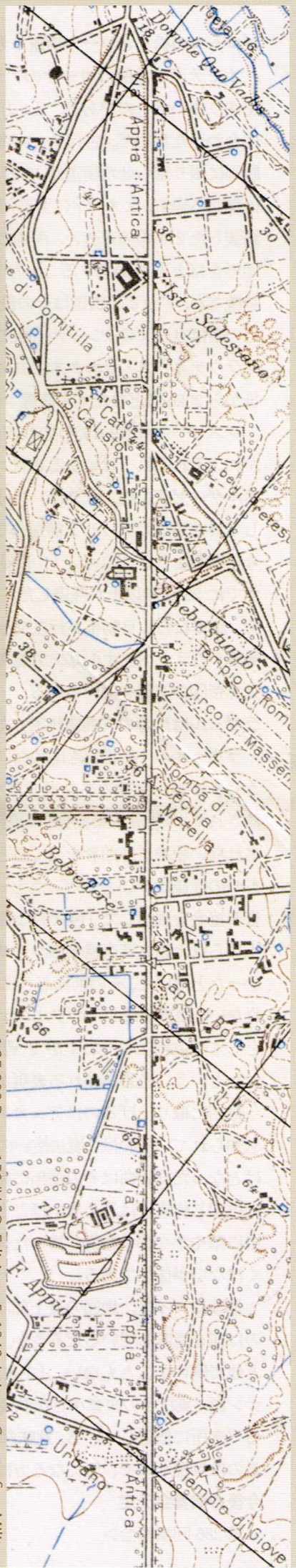
入場料　S席：￥3,000　A席：￥2,000　B席：￥1,500（全席指定）

チケットのお申し込み：teket　https://teket.jp/3558/30571
このQRコードをご利用ください →

インターネットを利用されない方は 080-9010-0058
（留守電にメッセージを入れてください）

プレイガイド：チケットぴあ　https://t.pia.jp/
Pコード：259378 ＊1月8日(月)発売開始
東京芸術劇場ボックスオフィス(1階) 休館日を除く 10:00～19:00　0570-010-296

＊点字プログラムを若干部用意しております。
　入口でお渡しいたしますのでお申し付けください。
＊おそれいりますが未就学児のご入場はお断りさせていただきます。
　託児サービスをご利用ください（予約制・詳細は裏面）。
＊新交響楽団のホームページ http://www.shinkyo.com/ 演奏会案内や曲目の解説、
　これまでの活動記録などがご覧いただけます。



1:25 000 Roma 150 IV SO, Edizione 5, 1949, Istituto Geografico Militare

「ローマの松」とローマ街道１号線

オモテ面の地図はローマのアッピア旧街道に沿って地形図を切り抜いたものである。1km 方眼の傾きは南東を向いた街道に合わせたためだ。古代ローマ帝国（共和制を含む）が広大な版図に張り巡らせた街道は 10 万 km にも及ぶ。構造はこぶし大の礫から砕石、セメントに至る何層にも重ねられた上に石畳で舗装した 2 車線の車道と、両側の歩道を備えていた。コースは地形をほとんど顧慮することなくどこまでもまっすぐなのが特徴だが、アッピア街道はその最初期に建設されたものである。その名はローマのケンソル（高位政務官）であったアッピウス・クラウディウス・カエクスに由来する。ローマの城門を出た直後から 20km ほどひたすら直線コースが続く。

レスピーギ（1879-1936）の代表作「ローマの松」は 4 部に分かれ、それぞれ「松のある古代ローマの風景」を描いている。ボルゲーゼ荘の松、カタコンバ付近の松、ジャニコロの松、そして終曲がこのアッピア街道の松である。1924 年の初演から今年でちょうど 100 年、「1 号線」たるこの街道の開通からはすでに 2300 年以上が経過した。現在も古代さながらの石畳道を、馬車ならぬ自動車が行き交っているが、レスピーギは「別働隊」のラッパとオルガンが鳴り渡る壮大な音響で、遙か昔の世界帝国の空気を描いている。

ラヴェルは当時の「前衛作家」だった

ラヴェルの「高雅で感傷的なワルツ」はサル・ガヴォーというピアノ製作会社の名を冠した小ホールでピアノ曲として初演された。「独立音楽協会」の催しで、誰の作品か事前に知らされない聴衆が作曲者を当てるという趣向。正解者は多かったものの評価は今ひとつだったという。「正統派」であった国民音楽協会を脱退して「現代的な音楽の創造」に寄与すべく立ち上げられた独立音楽協会のコンサートで、耳の肥えた聴衆が多かったとはいえ、その前衛ぶりについて行けなかったのかもしれない。曲は緩急 8 つのワルツからなり、翌年にはバレエ音楽としての依頼によりわずか 2 週間でオーケストラ用に編曲されたという。色彩感溢れる表現が聴きどころである。

最初に取り上げるのはデュカスの交響曲。この人の作品で最も知られているのは「魔法使いの弟子」だろう。生涯で 1 つだけとなった交響曲はその前年に書かれたものである。印象としては同じ作家とは思えないほど古典的で堅固な構成だが、その中に華やかな響きを併せ持った作品で、演奏機会はそれほど多くはないが佳品である。

最後にクイズ。地図の最上部に Domine Quo Vadis ？ とあるのは何を意味しているだろうか。地図に疑問符が印刷されるなど他で聞いたこともない。「主よ、何処へ」を意味するこのラテン語、実はそのまま小さな教会の名前であるが、なるほどあるべき所に位置している。意味深長なこの言葉を数行で説明するのは無理なので、気になる方は検索してください。（K.I.）

今後の演奏会予定

＜第 266 回演奏会＞

2024 年 7 月 28 日（日）14 時　東京芸術劇場

指揮　湯浅 卓雄

曲目：オネゲル／夏の牧歌、交響曲第 3 番「典礼風」、ストラヴィンスキー／バレエ音楽「春の祭典」

＜第 267 回演奏会＞

2024 年 10 月 12 日（土）18 時　すみだトリフォニーホール

指揮：坂入 健司郎　曲目：未定

＜第 268 回演奏会＞

2025 年 1 月 5 日（日）14 時　ミューザ川崎シンフォニーホール

指揮：城谷 正博　曲目：未定

新交響楽団のプロフィル

新交響楽団は 1956 年に創立されたアマチュアオーケストラです。音楽監督・芥川也寸志（1925-89）の指導のもとに旧ソ連演奏旅行、ストラヴィンスキー・バレエ三部作一挙上演、10 年におよぶ日本の交響作品展（1976 年にサントリー音楽賞を受賞）、ショスタコーヴィチ交響曲第４番日本初演など意欲的な活動を行ってきました。

またマーラーの交響曲全曲シリーズ（山田一雄指揮、1979～90）、ベルリン芸術週間への招聘・邦人作品演奏（石井眞木指揮、1993）、伊福部昭米寿記念演奏会（2002）、石井眞木遺作「幻影と死」完全版初演（高関健指揮、2004）、ワーグナー「トリスタンとイゾルデ」演奏会形式公演（飯守泰次郎指揮、2006）など、幅広い活動を積極的に展開しています。

維持会のご案内 ～良いお席を安く～

新交響楽団維持会は、新響の演奏活動にご賛同いただき支援して下さる方々の組織です。集まった会費は、楽器購入や演奏企画に活用しています。会費は一口 10,000 円で、2 年間有効の 5 枚綴りの回数券（どの演奏会でも一度に何枚でも使用可能）を差し上げます。良い S 席を優先的に確保いたしますので当日その中からお選びいただけます。お申込みは郵便振替にて直接会費をお振込みください。郵便振替口座：00130-0-　28074「新交響楽団維持会」

団員を募集しています

音楽監督の故芥川也寸志が長年にわたって主張し続けてきた「音楽はみんなのもの」を実践し、常に新しい視点を持って活動していくために、新しい力が必要です。何はともあれ、ぜひ一度練習をご覧ください。見学・オーディション等のお問い合わせは E-mail：shinkyo@music.nifty.jp

練習は毎週土曜日午後 6 時～9 時、東京芸術劇場（池袋）、クラシック・スペース☆100（大久保）他にて。

演奏会当日の託児サービスのご案内

東京芸術劇場でのご鑑賞の際には、施設内の託児室をご利用いただけます。土日祝日を除く公演日一週間前までにご予約ください。対象年齢：生後 3 ヵ月から小学校入学前、1 公演あたり 2,200 円（税込）お問合せ：株式会社ミラクス ミラクスシッター、電話 0120-415-306（平日 9:00～17:00、土日祝日休み）